

小笠 栄一郎 展

西山ランドスケープ° 2009

(A0版モノクロプリント、2点)

<概要>

大枝・大原野から大山崎・島本方面まで南北に群生する西山の竹のゲノムDNAを使った分子ドローイング。
西山の孟宗竹という大枝のサイトスペシフィックな材料を用い、分子生物学的手法によりタケの一般概念化を目指す。

2009年10月17日(土)

開館時間 10:00-17:00

 制作解説 13:00-14:00

(参加無料・事前予約不要)

場所

大枝土蔵

〒610-1151

京都市西京区大枝西長町5千丈天満宮北入柿畑上

【お問い合わせ】

E-mail : onoonobiol@yahoo.co.jp

Tel&Fax : 075-334-2271



小笠 栄一郎(おの えいいちろう)

バイオサイエンス博士

1974年 京都市生まれ、岡山大学農学部卒(美術に会う)

奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科修了

現在、西山の麓の総合酒類メーカー研究所に勤務

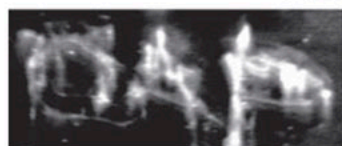
専門は植物分子遺伝学および二次代謝工学

主催：大枝アートプロジェクト実行委員会

助成：まちづくり人応援助成金(財団法人まちづくり市民団体) 京都府地域力再生プロジェクト(京都府) 学まちコラボ(京都市)
(AAFネットワーク にしきょうねっと参加団体)

協賛：大原野神社 柿ハウス 春日乃茶屋 西京工務店 あんじゅ 建築工房大五 ツキデ工務店 松尾園芸 西村幸二

後援：京都市立芸術大学 京都Neo西山文化プロジェクト 協力：ガリ版伝承館 スイボウス(水防子)



Ooe Art Project
<http://oeap.exblog.jp>

大枝・大原野～大江山・島本へ南北にのびる西山には広大な竹林が広がっている。西山と桂川に挟まれ南北に細長い土地にはJR、阪急、新幹線、名神高速と主要幹線が束を形成している。そこに暮らす人々や、毎日通過する大勢の人々が美しい西山の風景を共有している。そこで育った人には郷愁を与え、よそからの転入者や過ぎてゆくだけの人々にも多岐にわたる四季を感じさせてくれるが、人々がそれをどう感じているかを認識しあうことはない。これは西山のふもとに暮らす一木植物科学者が人々がそれぞれに思う西山の共通イメージを求め、サトスベニアックな材料(竹)を用いて分子生物学的手法により西山を一般化・純化する試みである。また、近い将来に高速道路(にせいの)延長により切り崩されるであろう西山の竹林をセンチメンタルに目撃するきっかけでもある。

「春は筍、秋は柿」。これらは西山で育まれる代表的な農作物であり、この地域に暮らす人々は毎年その恵恩にあやかる。これらを食べ、その栄養素を血肉化する行為(有機物を代謝し、アミノ酸、核酸、糖として再利用し、熱・運動エネルギーに変換する)は普及あまり意識されないが、自分自身も西山を含む生態系の一部であることに外ならない。体内に摂取された竹ゲルムは人にとっては血肉化する分子に過ぎないが、竹にとっては自身を作り作る膨大な遺伝子情報である。そこにコードされるボタニコランに見つて形態形成が行われ、代謝系が働き出し、その結果として西山に広大な竹林が形成されている。言い換えると西山の竹林風景は竹ゲルムの表現型(アトバット)である。

分離・抽出された竹ゲルムは西山の風景を純化した物質であるが、それ自体では単に「オキシリブ」核酸の集合体であるために人は他の生物のそれと区別することができない。すなわちそこに残された情報は極めて具体的であるにも関わらず抽出の過程でその具象性は見かけ上排除されてしまう。そのユニークなアイデンティティを再認識するために漢字という一般認識・共有可能な形に再構築し、それを山状に再配置することで西山を表現した。そこには人の思想とは無関係に地下茎でクローンを増殖し続ける竹の姿が浮びあがる。

<材料>

竹ゲルム DNA (西山産 笹科 孟宗竹, *Phyllostachys pubescens*)

ラムダファージ DNA (テスト用)

0.8% アガロースゲル (1×TAEバッファ)

エチジウムブロマイド (UV検出用染色剤)

<参考文献>

Coen, E. (1999) *The Art of Genes*. Oxford University Press.

大枝土蔵へのアクセス

- ◇阪急桂駅西口より
市バス 西1・西5・西8系統
「新林センター前」下車
- ◇JR向日町、阪急洛西口ヤサカバス
桂坂中央行きにて
「新林センター前」下車
- ◇阪急桂駅東口2番
京阪京都交通バス
1・2・13・14・25・26・28系統下車
「芸大前」下車
いづれも徒歩10分程度



大枝・大原野から発信する地域の魅力を
発見する本づくりの新しい試み
～ニシヤマアートブックプロジェクト～